

在宅見守り支援分科会
SIG Home Telecare
分科会長 鈴木 亮二
高崎健康福祉大学

1. 分科会の目的

ICTを用いた在宅見守り支援を普及する方法として、「ひと」と「もの」を連携した「社会連携ユニットの構築」を提言し、在宅見守り支援の確立と普及を目指す。

2. 令和5（2023）年度活動実績と成果

今年度は分科会としての活動はできず、また、学術大会で情報交換できずに個人による活動が主なものとなった。

鈴木亮二会長は生活支援機器を普及するために、第60回日本リハビリテーション医学会学術集会（福岡）において教育講演「臨床家に必要な生活支援機器入門」を行って好評を得た。また、本学会が協力した令和5年度 JICA 課題別研修において「Assistive technologies in Japan」の講演を行った。他に ICT の記事を雑誌連載して、地域連携関連職種に情報提供を行った。

小川晃子会員は令和5年度厚生労働省老健事業報告会において「地域包括センターにおける高齢見守り活動の必要性と地域包括支援センターの負担軽減のための民間連携・ICT活用について」の講演を行った。

（雑誌掲載）

1. 鈴木亮二. 多職種連携の情報共有ツール. 地域連携 入退院と在宅支援. 日総研出版 ; 16(1) : 33-35, 2023.
2. 鈴木亮二. 「ひと」と「もの」の連携で困難を乗り越える. 入退院と在宅支援. 日総研出版 ; 16(2) : 92-94, 2023.
3. 鈴木亮二. 医療福祉の DX (デジタルトランスフォーメーション). 入退院と在宅支援. 日総研出版 ; 16(3) : 89-91, 2023.
4. 鈴木亮二. 電子カルテ導入・更新に役立つ視点. 入退院と在宅支援. 日総研出版 ; 16(5) : 77-81, 2023.
5. 鈴木亮二. 第50回福祉機器展報告. 入退院と在宅支援. 日総研出版 ; 16(6) : 92-95, 2024.

3. 令和6（2024）年度活動計画

ICTの発達によって在宅見守りの状況が変わってきているため、身近な事例を調査して勉強会を開催したいと考えている。また、介護ロボット等導入支援事業による施設の見守り機器導入状況を調査し、在宅に導入する場合の課題について検討したいと考えている。